

経営比較分析表（令和4年度決算）

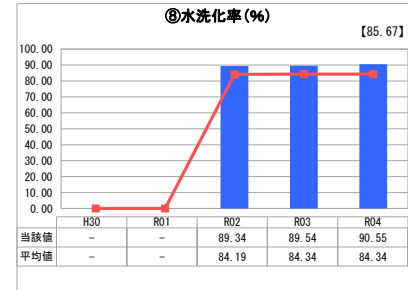
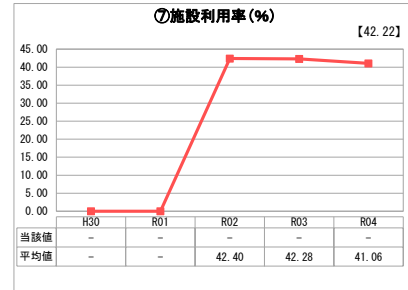
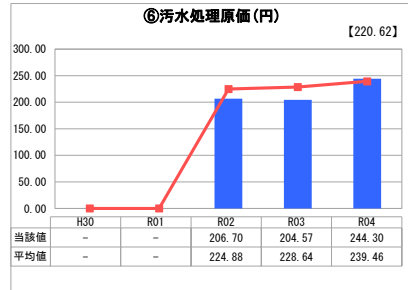
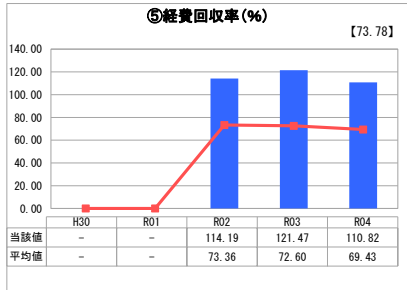
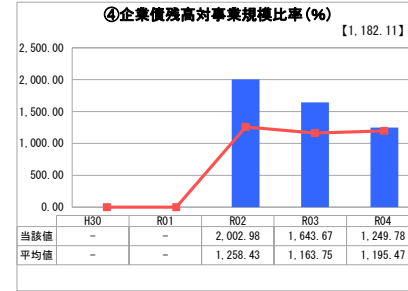
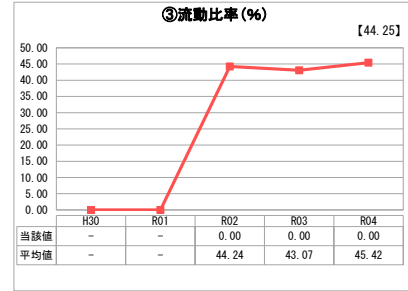
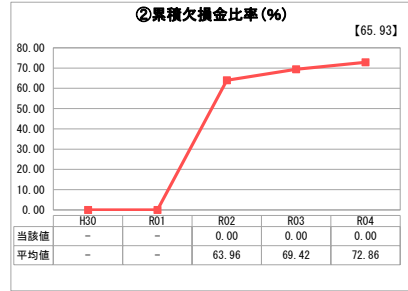
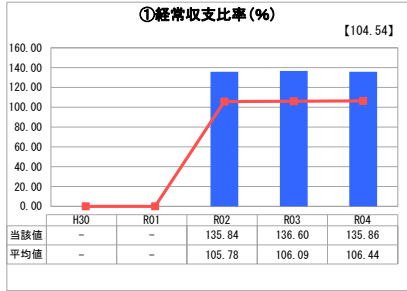
北海道 白老町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	27.69	4.42	100.00	4,422

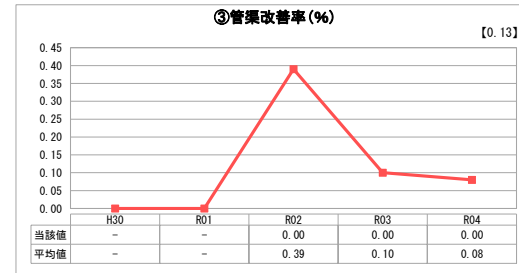
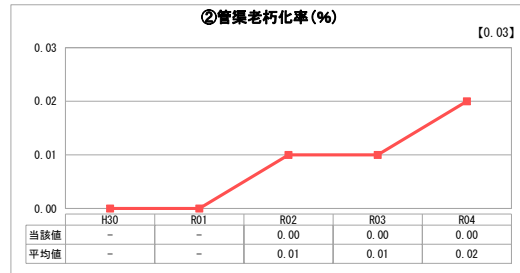
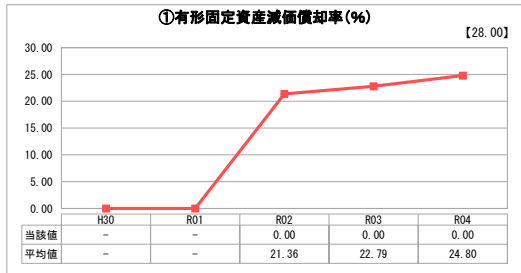
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,721	425.64	36.93
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
688	0.72	955.56

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 昨年度からほぼ横ばいで、経営収支比率は100%を超えていることから経営の健全性は確保されている。
- ② 黒字決算のため計上されない。
- ③ 今後も減少となる見込みであり、改善傾向である。
- ④ 昨年度より増加しており、今後も有収水量の減により増加が見込まれる。
- ⑤ 100%には満たないものの、普及拡大はおおむね完了している。

2. 老朽化の状況について

平成8年度供用開始であり、公共下水道と比較すると新しい施設であることから修繕、改築等は行っていない。下水道事業ストックマネジメント計画等に基づき適切な執行に取り組む。

全体総括

前年度に引き続き黒字決算となったものの、現在堅調である下水道使用料収入は長期的に減少が見込まれる。
施設老朽化については、公共下水道事業より新しく喫緊の問題ではないものの、長期的には修繕、更新の費用の増加が見込まれることから、より計画的な処置を進めていきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。